

美濃焼振興に活用を

多治見市へ1000万円寄付



寄付金を贈呈した神野善則名古屋支店長(中央)。右は加知康之理事長＝多治見市本町、東濃信用金庫

信金中金、ふるさと納税活用

信金中央金庫(東京都)は22日、企業版ふるさと納税の仕組みを活用した創立70周年記念事業「SCBふるさと応援団」の一環で、多治見市に1千万円を寄付した。寄付金は美濃焼文化を細かくひもといいた「美濃焼解剖本」の製作事業に充

てる予定で、市はセラミックバレー協議会負担金として2022年度一般会計当初予算案に計上している。信金中央金庫は地域課題の解決などにつながる地域創生事業を地元の信用金庫とともに支援しようと、70周年を迎えた20年度から同

事業を実施。寄付対象は21年度までに全国で計196事業あり、寄付総額は19億4千万円となる。多治見市は東濃信用金庫(加知康之理事長)の推薦で寄付対象に選ばれた。

寄付金の贈呈式は多治見市本町の東濃信用金庫本店で開催。信金中央金庫の神野善則名古屋支店長は古川雅典市長に目録を手渡し、「寄付を通じて地域創生に向けた取り組みを加速させ、多治見市の経済社会活動を積極的に支援していく」と述べた。古川市長は「セラミックバレーの発展、特に美濃焼を解剖した本に特化をして使っていく。市民を代表してお礼を申し上げる」と話し、感謝状を贈った。(織部俊太郎)